

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

【学校理念】「真善美」を校訓に、豊かな人間力をはぐくむ

【教育方針】

1. 「鍛える」 頑張ることができる力（心・体・知のトータルバランス）
2. 「見守る」 十人十色の個性と成長、集団の力
3. 「高める」 豊かな教養・人権感覚・国際感覚・他者貢献

【めざす学校像】

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する。

1. 学力を伸ばす～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力の育成を図る
2. 能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する
3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切に、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

## 2 中期的目標

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する

## 1. 学力を伸ばす～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力の育成

- (1) 3年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定
- (2) テンミニッツの活用で学習意欲・学習習慣を身につける
- (3) ICT機器やタブレットの積極的活用、授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る
- (4) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす
- (5) 講習、補習の計画的実施と内容の充実
- (6) 新学習指導要領や観点別評価及び大学入試共通テスト本格実施に向けた準備と対策

※大学入学共通テスト 対全国平均得点率10%アップ（令和2年度 大学入学共通テスト全国比較3%ダウン）（H305%・R15%・R2-3%）  
（得点率をあげることで、国公立大学や難関私立大学への受験希望者の第1希望の割合を維持する。）

## 2. 能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する

- (1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む
- (2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う  
\*R1年度に「寝屋川高校は一つ「いのち・絆プロジェクト」～全日制定時制をつなぎ、そして地域から世界に発信する寝屋川高校～」をテーマに学校経営推進費の支援校に決定  
\*食堂を活用した事業展開を進めるために改装  
壁の塗装・ミーティング用可動式テーブル・椅子・遮光ロールスクリーンを設置（220万円） 生徒会全体の取組みを地域へ広げていく。
- (3) 人権教育や総合的な探求の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神や国際感覚の育成を図る
- (4) 生徒のコミュニケーション能力、文章や情報を読み解き対話する力を向上させる取組みを充実させる
- (5) 社会貢献やボランティア活動、地域との連携、各種コンテストなどへの積極的参加の推奨
- (6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進

※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率（R2 90.7%）を令和5年度には92%にする。

(H30/87%・R1/89.9%・R2/90.7%)

「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率（R2 84.9%）を令和5年度には92%にする。 (H30/82%・R1/84.7%・R2/84.9%)

## 3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切に、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

- (1) 新しい組織の充実 横断化・全体化するためのシステムづくりを進める
- (2) 目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のためのRPDCAサイクルの定着(各教科・学年・分掌)
- (3) 課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る
- (4) 教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる
- (5) 広報体制を確立し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する
- (6) 教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1. 学力を伸ばす	(1)「寝屋川スタンダード」の策定 (2)テンミニッツの活用による学習習慣の定着 (3)ICT 機器やタブレットの活用、授業形態や授業方法の研究で系統的・効果的な教科指導の確立 (4)公開研究授業（内外）など研修の実施で「授業力」向上 (5)講習、補習の計画的実施 (6)新学習指導要領、大学入学共通テストに対応した準備と対策	(1)学力向上委員会の組織を機能的に運用する。 各学年・各教科で3年間の学習目標と計画を策定し、生徒・保護者に示す。 授業の実施にあたっては、共通事項を決め実施する。 (2)始業前の10分間を学習習慣定着の時間に充てる。 (3)ICT 機器やタブレットを積極的に活用することで、授業のわかりやすさや効率・集中力を高め、主体的に取り組む態度を育成する。 ICT 活用促進のための研修を実施する。学力向上委員会と情報部が共同で実施し、相互の教員力向上を図る。 (4)公開研究授業・研究協議を全教員で実施し、「授業力」の向上を図る。 (5)講習を計画的に実施し、授業以外のサポート体制を充実する。 (6)新学習指導要領の研究、主旨を全職員で共有し新しい教育課程作成に取り組む。進路部が中心となり、大学入試についての分析をおこない、本校生徒について、データ化し、進路指導に活かす。 模試のデータを活用し、学年ごとの目標値を設定。『最後まで諦めない』粘り強い指導を行う。	(1)すべての教科において研究授業・研究協議を実施 (教職員自己診断) 組織的に取り組む70%以上 [68.8%] 学校教育自己診断(生徒・保護者) 「方針や活動・計画を分かりやすく示している」生徒85%保護者89%以上 [83%・88%] (2)授業アンケートの「授業に集中」の項目で88%以上 [87.6%] (3)生徒向け学校教育自己診断における、授業に関する満足度「教え方の工夫・授業がよくわかる」を86%を維持する [86.6%] 相互授業見学週間の実施 全教科での研究授業の実施 (4)大学入学共通テストの全国平均に対する得点率R2年度比で5%アップ (5)生徒向け学校教育自己診断の「講習や補習」87%以上 [87%] (6)進路指導部を中心とした検討会議を定期的に行い職員で共通理解の場を作る。 学校教育自己診断(教職員)「各教科において学習指導計画や評価について十分な議論がなされている」85%以上 [83.3%]	
2. 能動的に学ぶ姿勢を身につける	(1)進路指導機能の向上 (2)生徒主体の活動の充実で自立心や主体的に行動する力の育成 (3)人権尊重の精神や国際感覚の涵養 (4)生徒のコミュニケーション能力の育成 (5)社会貢献やボランティア活動、各種コンテストなど積極的参加の推奨 (6)文化的・芸術的活動や読書活動の推進	(1)基本的な生活習慣・規律（挨拶、時間、清掃、感謝、貢献）が将来の進路実現に繋がることが日常的に全職員で指導に当たる。学年団を中心に、総合的な探求の時間を活用し、将来の職業選択に生きるキャリア教育を進める。 (2)生徒会中心に全日制と定時制の連携を図り、協働の取組を行う。 近隣の小中学校や地域との連携の方法を模索し実施 (3)人権研修の在り方を探求委員会で検討し、全体計画を作成する。 3年間を見据えた人権教育の構築と組織的な国際交流活動の充実 (4)タブレットを含む ICT 機器を活用し、プレゼンや発表の機会を校外外で実施する (5)授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。 寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流推進 (6)2年生の芸術鑑賞、3年生の文楽鑑賞のほか文芸Gが中心となった読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼びかける。	(1)全職員で実施 生徒の学校教育自己診断「進路選択について相談する機会」88%を維持 [87.7%] (2)生徒の学校教育自己診断「学校行事に積極的に楽しく参加」90%を維持 [90.9%] (3)人権教育の評価(生徒)90%を維持 [90.7%] 考えをまとめ発表する機会(生徒)85%を維持 [84.9%] (4)総合的な探究の時間、修学旅行プレゼン、人権探究学習、英語スピーチコンテスト等の実施 肯定85%を維持 [84.9%] (5)校内コンテスト実施 外部のコンテスト等への参加および参加促進 寝屋川市や小・中学校との様々な連携 (6)全員対象の読書コンクール 読書マラソンの実施	
3. 学校力のパワーアップ	(1)新分掌の充実と横断化・全体化するためのシステムづくり (2)目標と成果の共有とRPDCAサイクルの定着 (3)職員研修の充実による教員力の向上 (4)教育相談機能の充実 (5)学校広報と情報発信機能の充実 (6)「働き方改革」の検討を進める	(1)「寝屋高みらいPT(仮称)」を組織し、学校の課題を洗い出し内外に向けた魅力化を図る。めざす学校像・育てたい生徒像を共有する機会を常に設け、教育全体を見据えた業務の連携を深める。 (2)学校教育自己診断、学校運営協議会の意見等を学校運営改善に反映させる。各学年・分掌・委員会の「総括」から、個人だけでなく、組織(分掌・学年等)目標を立てた取組みにする。 (3)次代のミドルリーダーとなる教員研修の実施。現ミドルリーダーをけん引役として実施し相互向上を図る。 経験の少ない教員に対しては、地域行事や学校説明会等に積極的に参加させる。 府教育センターの研修や、大学と連携した研修、校内研修により継続的な教員の資質向上を図る。 (4)教育相談にかかる理解を深める機会を増やし常に共通理解に努める。ケース会議やSCによる教員研修の実施。 (5)学校紹介 PP や学校案内(次年度向け)のリニューアル 寝屋川市や地域との連携で生徒の活動を支援する。 (6)働き方改革について検討する。 各学年、分掌内における業務の精査	(1)目標共有にかかる職員自己診断結果 70%以上 [68.8%] (2)RPDCA サイクルにかかる職員自己診断結果45%以上 [39.6%] (3)実施回数と振り返り5回以上 (4)職員自己診断結果(教職員)80%以上 [78.7%] (生徒)80%を維持 [80.4%] (5)生徒や経験の少ない教員なども参画し、学校案内の改定、HP の内容の生徒の活動等における更なる充実を図る。 寝屋川市や地域と連携した生徒会活動 学校行事に積極的に参加している90%を維持 [90%] (6)時間外勤務時間を昨年度比5%減 [7%]	